

文化・芸術

「本をめくる子ども」

1941年、コラージュ紙
35・5センチ×27・1センチ（個人蔵）

松本竣介（1912〜48年）

まだ字が読めないであろう幼い子どもが、本をめくる感覚を楽しんでいるようです。本の内容は描かれていませんが、子どもの視線は紙面に向けられています。即興的な線で軽やかに、子どもが一瞬見せる姿をとらえています。

この子どものモデルは、松本竣介の次男、莞と思われまふ。読書家でもあり愛書家でもあった竣介のまねをして本をめくって見たのでしょうか。

アトリエ再見展示でご覧いただけるように、竣介のアトリエには本が900冊以上ありました。莞はそのアトリエによく出入りし、時には制作をする竣介の横で絵を描いたり遊んだりしていたそうです。そんな子どもの姿を父親としての温かなまなざしでとらえた作品です。

大川美術館ではあす7日午前10時半から、読み聞かせを実施します。展示会を鑑賞しつつ、親子で本の世界に親しみませんか。10日、16日にも開催いたします。内容は各日異なりますのでぜひご参加ください。

（池田）

名画の扉

大川美術館企画展から

